

令和元年度「第2学年進路ガイダンス」

7月4日に第2学年進路ガイダンスを行いました。

今年度は以下のような日程で、4名の先生方に講義をしていただきました。

時間	文型〔200名〕	理型〔163名〕
14:25~ 15:10	広島大学 大学院社会科学部 政策動態講座 教授 牧野 雅彦	広島大学 大学院統合生命科学研究科 生体・応用動物生命科学 准教授 西堀 正英
15:10~ 15:55	京都大学大学院人間・環境学研究科 共生文明学専攻 文化・地域環境論講座 教授 山村 亜希	京都大学大学院工学研究科 社会基盤工学専攻 構造工学講座 教授 高橋 良和

(敬称略)

生徒は、文型、理型に分かれ、それぞれで、お二人の先生方の講義を聴きました。
国立大学の講義の一端に触れ、自らの進路を考える上で貴重な時間となりました。



生徒の感想より

○私も日常で自由って何なのだろうと思うことがあるのですが、今回の講義を聞いて自由について少し分かった気がしました。表現の自由は誤りを防ぐためであり、そのためには誰かの批判が必要なのだと分かりました。今回の話はとても興味深かったのもっと知りたいと思いました。

○人間が間違いを犯すことがないようにするためには、他の人からの批判が大切になるので批判の自由は保障されるべきだと聞いて、何事にも明確な意味があるんだと思った。大学の講義では先生の話聞いて大切なことのメモを取ったり、板書をうつすことを考えると、大切なことを聞きとる力をつけなければいけないと思った。

○ずっと広島のことを学んできたので、分かったつもりでいたが、この講義を受けて、まだまだ知らないことが多かった。戦前、戦後、今の地図を見比べて広島の地の歴史を理解することができた。土地の移り変わりによって復興の歴史を知ることができるのはすごいと思った。地図を見比べるという機会は全くと言っていいほどないが、地図を見て発見できること、理解を深めることができると分かったので機会があればじっくり見てみたい。

○地理と歴史を融合させて考える歴史地理学はとても面白いと思った。いつも何で広島城の堀は広いのかと疑問に思っていたのですが地図を見るとその理由が排水のためであると分かることができ地図は何でも分かるなという印象を持ちました。

○「好きこそものの上手なれ」という言葉から、好きになれば上手になれる可能性はあると分かった。だから何事も楽しいと思えるところを見つけて、どんどん好きになって上手になろうと思った。観察することはとても大切で、“つもり”にならないように、しっかり観察しようと思った。

○今回先生の話聞き、生物という学問をさらに面白く感じました。特に「ニワトリ」の絵を描いただけで、「突然変異」や「国・文化による違い」まで広げられていて、日頃から観察をしていくことで、関係ないように見えるものも、つなぐことができると分かりました。私ももっと周囲を観察していこうと思います。

○今まで自分は壊れないように設計することが耐震だと思っていたけど、上手く壊れるように設計することが耐震だということを知って面白いなと思いました。また、物理や数学は将来役に立たないと思っていたけどさまざまな場面で役立つことを知って頑張りたいと思いました。

○複雑なものを複雑なまま考えず、できるだけ単純にして物事の本質を捉えることが工学では重要ということが分かった。土木は私たちの社会を新陳代謝させるという考えには驚いた。土木は知らないところですごく社会に役立っているのもっとその役割や働きについて知った方がいいと思うし、今日の講義で少し知ることができたので良い時間になった。